

「十七歳。サククスを手に夢へと突き進む」

寺久保 エレナ

Terakubo arena

百九十万人が住む街へと成長した札幌。先人が築いた礎の上、皆それぞれに輝きを放ちながら、この街で暮らしています。この連載では、そんな百九十万人の一人に焦点を当て、その輝きの源に迫ります。



使い込まれてメッキが落ちたサククスを吹き始めた瞬間、周囲の空気が大きく震えた。迫力の演奏に、思わず息を飲んだ。寺久保エレナさん。十七歳にして、日本ジャズ界の巨匠・渡辺貞夫氏など、数々の大物たちとステージを共にするジャズサククス奏者である。

サククスを始めたのは小学三年のとき。知人にもらった人形が、サククスを抱いていたことから興味を持った。「最初は指が届かないし、息も続かなかった。でも、とにかく楽しくて仕方なかったんです」。その後、芸術の森で行われている「札幌・ジュニア・ジャズスクール」に入り、ジャズにのめり込んでゆく。

バンド全員がアドリブを混じえながら演奏するジャズ。「そんな自由なスタイルが魅力」と語る寺久保さんは、その面白さに引かれ、めきめきと腕を上げた。そして中学一年のとき、アメリカ「パークリー音楽院」への留学をかけたコンテストで、最年少入賞を果たす。

「パークリー音楽院」は、音楽のエリートが世界中から集まる

学校。技術が格段に上の同世代を目の当たりにし、世界のレベルを思い知ったという。だが、寺久保さんは臆さなかった。「技術を学びたい」。その一心で、言葉の通じない中、練習はもろろん、普段の行動も彼らと共にした。そうした日々が、今の彼女の礎となつている。

十代とは思えない卓越した演奏から、天才と評されることもある。だが本人は戸惑いを感じているという。ジャズ奏者としては、まだまだ駆け出し。覚えなければならぬ理論や技術は山のようにある。「努力しています」と言い切る寺久保さん。その揺るぎないまなざしからは、プロの風格さえ感じられた。

だが、「ジャズ以外の流行の曲にうとくて。友達が『この曲聞きなよ』ってCDを貸してくれるんです」と笑った顔は、あどけなさの残る高校生だった。

「いつの日か、世界で活躍するミュージシャンを引き連れてサッポロ・シティ・ジャズで演奏したい」。努力を続ける寺久保さんが、そのステージに立つ日は遠くないだろう。

寺久保エレナ

市内の高校に通う17歳。平成14年に、札幌・ジュニア・ジャズスクールに入り、本田雅人氏など、プロミュージシャンの指導を受け頭角を現す。平成18年、日本ジャズ界の巨匠渡辺貞夫氏と共演。現在も数々のプロミュージシャンと全国でライブ活動を展開している。



サッポロ・シティ・ジャズ

一流のジャズが堪能できる音楽イベントです。詳細は9ページをご覧ください。

■開催期間／7月12日(日)～8月9日(日) ☎592-4125(同実行委員会／芸術の森内)
■ホームページ／sapporocityjazz.com